

シリー

文化の薫る町 木屋瀬

第四回 木屋瀬の町並みと伊馬春部

令和三年十二月、木屋瀬の伝統行事である子供ゑびす祭りが古式に則り行われ、御神行、笠山笠の運行等盛大に執り行われました。頭（かしら）の名前も紅白の幕に十名記載されました。一時期は頭の人数が少なく開催の継続が心配された時期もありましたが、関係者のご努力のお陰で今日盛大に開催されています。七十年前に頭を経験したものとして感謝に絶えません。木屋瀬の文化の継続の姿が此処にあるようです。

木屋瀬の祭りや街並みの見学に他所から来られる人達が多数居ますが、私たち住民が普段何気なく見ている瓦葺きの家々に他所でない魅力を感じられるよう

です。

木屋瀬は、江戸時代は長崎街道の宿場です。木屋瀬の文化の継続の姿が此処にあるようです。昨今、木屋瀬の祭りや街並みの見学に他所から来られる人達が多数居ますが、私たち住民が普段何気なく見ている瓦葺きの家々に他所でない魅力を感じられるよう

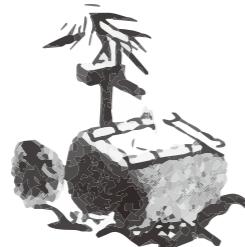
です。

京都より太宰府までの道を大路と呼び、国内で一番重要な道であった。この大路が木屋瀬の町部を貫いているが、大路と呼ばれる道はこの一道だけであった。今の東海道と東山道の二道が中路と呼ばれていた。

三四五年前の大化元年のクーデターにより蘇我氏が滅亡した。それから政り事は、天智天皇、天武天皇代を主軸に次々に改められていった。この大改革を大化の革新と呼んでいるが、その中で大宝律令と養老令も定められ、この律令に従い、前記の道路の必要な場所の集落に宿駅が定められた。これは公用の旅

をする人達の便利を計る事が目的であったが、一般の人々の交流や、集落の発展の上に大きな期待がもたらせる事でもあった。

木屋瀬には国内一道の大路が貫通しているので、律令施行と同時に宿駅になつて定め、駅戸の中より駅長を定める。宿駅の制度は、先ず駅戸を



わたしの昔話

京都より太宰府までの道を大路と呼び、国内で一番重要な道であった。この大路が木屋瀬の町部を貫いているが、大路と呼ばれる道はこの一道だけであった。今の東海道と東山道の二道が中路と呼ばれていた。

三四五年前の大化元年のクーデターにより蘇我氏が滅

亡した。それから政り事は、天智天皇、天武天皇代を主軸に次々に改められていつた。この大改革を大化の革新と呼んでいるが、その中で大宝律令と養老令も定められ、この律令に従い、前記の道路の必要な場所の集落に宿駅が定められた。これは公用の旅をする人達の便利を計る事が目的であったが、一般の人々の交流や、集落の発展の上に大きな期待がもたらせる事でもあった。

木屋瀬には国内一道の大路が貫通しているので、律令施行と同時に宿駅になつて定め、駅戸の中より駅長を定める。宿駅の制度は、先ず駅戸を

取り揃え等々の他に、宿駅と宿駅とをリレーして行う「駅伝制」も定められたので、町は

宿泊所や休息所や旅用品の下付は長くは続かなかつた。

宿駅と宿駅とをリレーして行う「駅

伝制」も定められたので、町は

宿泊所や休息所や旅用品の下付は長くは続かなかつた。

宿駅と宿駟とをリレーして行う「駅

伝制」も定められたので、町は

宿泊所や休息所や旅用品の下付は長くは続かなかつた。

宿駟と宿駟とをリレーして行う「駅

伝制」も定められたので、町は